第12回報告書

笠井淳吾

ワシントン大学（シアトル）でコンピュータサイエンスのPhDを2018年の9月から始めた笠井淳吾と申します。研究分野としては、自然言語処理（NLP）、機械学習に取り組んでいます。

1. 生活、進捗

PhDもついに5年目ということで、最終後半の半年は、次のステップの探索、Jobサーチに主に時間と労力を費やしました。将来の進む道を考えた結果、アメリカの教授職を目指したいと考えました。分野や大学により多少の違いはありますが、教授職は基本的に公募で、オンラインでCV, research statement, teaching statement, diversity statementと、3-5通の推薦状を提出します。それぞれの大学や学部によって変わりますが、応募者はメールでの連絡を待ち、メールが来た場合ZoomなどでInitial Screeningがあったり、そのまま実際に現地に招待されます。現地に招待された際、一日や二日をかけて自身の研究成果、将来の研究計画などを発表するトーク、そして他の教授陣との個別ミーティング、ランチ、ディナーなどがあります。このプロセスは非常に労力が必要で、ほぼ休みなく教授のオフィスに移動して30分～45分程度の話をしたり、教授や学生の前でトークをしたり、一日大忙しになります。Job interview/job talk のプロセスについては、経験者からのブログ記事などたくさんありますので、もし将来アメリカの教授職に興味がある場合、一度目を通しておくことをお勧めします。個人的には、同じワシントン大学の卒業生のブログ記事を読み、参考にしていました。
https://rowanzellers.com/blog/rowan-job-search/

結果から申しますと、私がプロセスが始める前に予想していたものよりはるかに厳しい状況でした。まず、40校程度に応募書類を出してから、メールでの連絡が来た学校は、わずかに2校でした。そのうち一校は4月に連絡が来ましたので、基本的に1校だけしか連絡すら来ない、という状況が4ヶ月以上続きました。私自身、ポスドクは経験してはいないとはいえ、論文での実績などは自信を持っていましたし、少なくとも5校程度からはメールが来ると思っていました。なぜ連絡が来なかったのか、初期の初期のscreeningで落ちてしまったのか、明確な原因はわかりません。アメリカの経済状況もよくないことは、一因としてあったかもしれません。また、私

の分野であるNLP分野も、ChatGPTに代表されるように少しずつ成熟してきていて、研究分野として今後どうなっていくか、いまいちわからないところがあります。そのような背景を踏まえて、今年はこの分野での教授の採用などはやめよう、という考え方があっても不思議ではありません。

4ヶ月精神的に非常に苦しい思いをしましたが、無事9月からToyota Technological Institute at Chicago (TTIC) の研究助教授に着任することが決まりました。TTICはシカゴ大学のキャンパス内にあり、Facilityなどはシカゴ大学と全て共有しています。TTICの教授職で研究を進めながら、さらなるステップに繋がっていくようなものを作っていきたいと今はとても大変興奮しています。

2. 展望

8月はとうとう dissertation defenseが予定されていて、PhD取得になります。次のステップも決まったことですし、あとは楽しくやっていくだけです。この4ヶ月精神的に支えてもらった、友人、家族、指導教官には感謝の気持ちで一杯です。今後は少しでも恩返しできるようなものをつくっていきたいです。楽しみです！